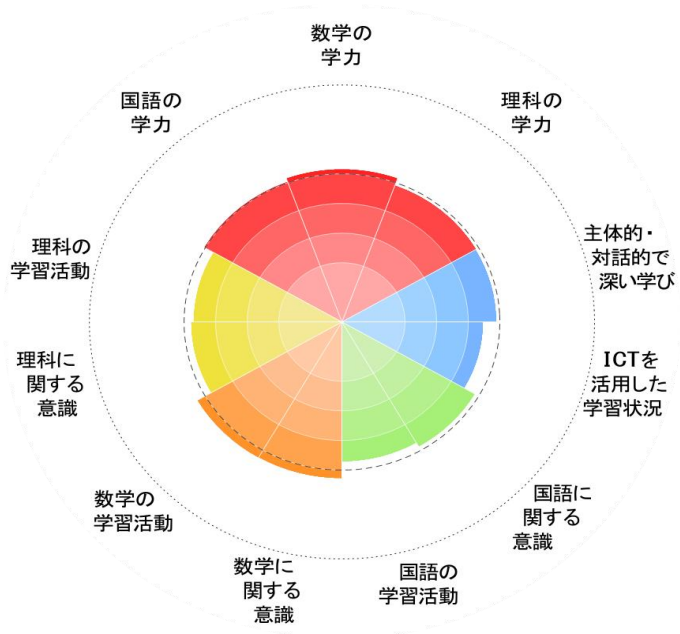


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策(松江市全体～中学校・義務教育学校後期課程)

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
国語	○事象や行為を表す語句についての理解。 ●文脈に即して漢字を正しく使うこと。 ●書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えること。 ●読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。	・漢字を指導する際に、一つの漢字に複数の音訓があることを意識し、同音異義語や同訓異義語の意味に注意させる。一人一台端末等を活用して文字を入力する活動の際には、日本語入力システムの変換候補にある漢字の意味の違いに関心をもたせる。 ・作文など文章を書く学習の際に以下の点に留意する。 ①書き出す前に、集めた材料や情報を整理して文章の中のどこに位置付けるのが適切かなど、文章の構成や展開を考える学習段階を重視する。 ②書き上げた後に、時間をおいて読み返したり、書いた文章を音読するなどして、叙述の仕方について考え書き直すなど推敲する段階を設ける。
数学	○基本的な数学用語の意味を正しく理解し、問題を解く際に利用すること。 ●数量を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取って成り立つことを見出し、数学的な表現で事柄が成り立つ理由を説明したりすること。 ●事象を数学的に解釈して問題解決の方法を説明したり、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。	・具体的な数量について計算したことを基に文字式に表したり、式の誤りの例を確認したりする学習を充実させるとともに、条件を変えて成り立つ性質を予想する活動や、問題解決の過程を他者に伝える活動を充実させる。 ・日常生活や社会の事象における問題の解決に、数学を活用する活動を取り入れたり、方針を立てて証明を書いたりする活動を充実させる。
理科	○考察の妥当性を高めるため、収集する資料や情報の信頼性を吟味する知識及び技能が身に付いていること。 ●音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること。 ●実験の結果を分析・解釈し、徹視的な粒子の視点から化学変化を原子や分子のモデルで表すこと。	・観察や実験を行う前に、生徒自身に「この実験で何がわかるのか」「どの条件を変え、何を比較するのか」を明確に言葉にさせ、予想を立てるようにする。実験の考察時には、「何と何を比較したのか」「その比較から何が言えるのか」「なぜそのような関係性が見出せるのか」といった問いを投げかけ、生徒に適切に表現させる言語活動を充実させる。 ・化学変化を質的・実体的な視点で捉える指導を充実する。実験の動画等から反応物と生成物を整理させ、原子の種類と数が不変であるという知識を確認する。その際、1人1台端末を活用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できる学習場面を設定する。

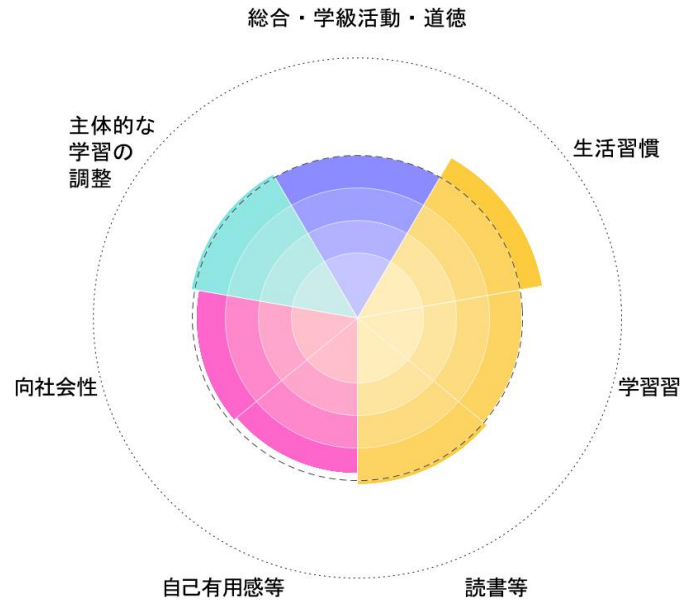
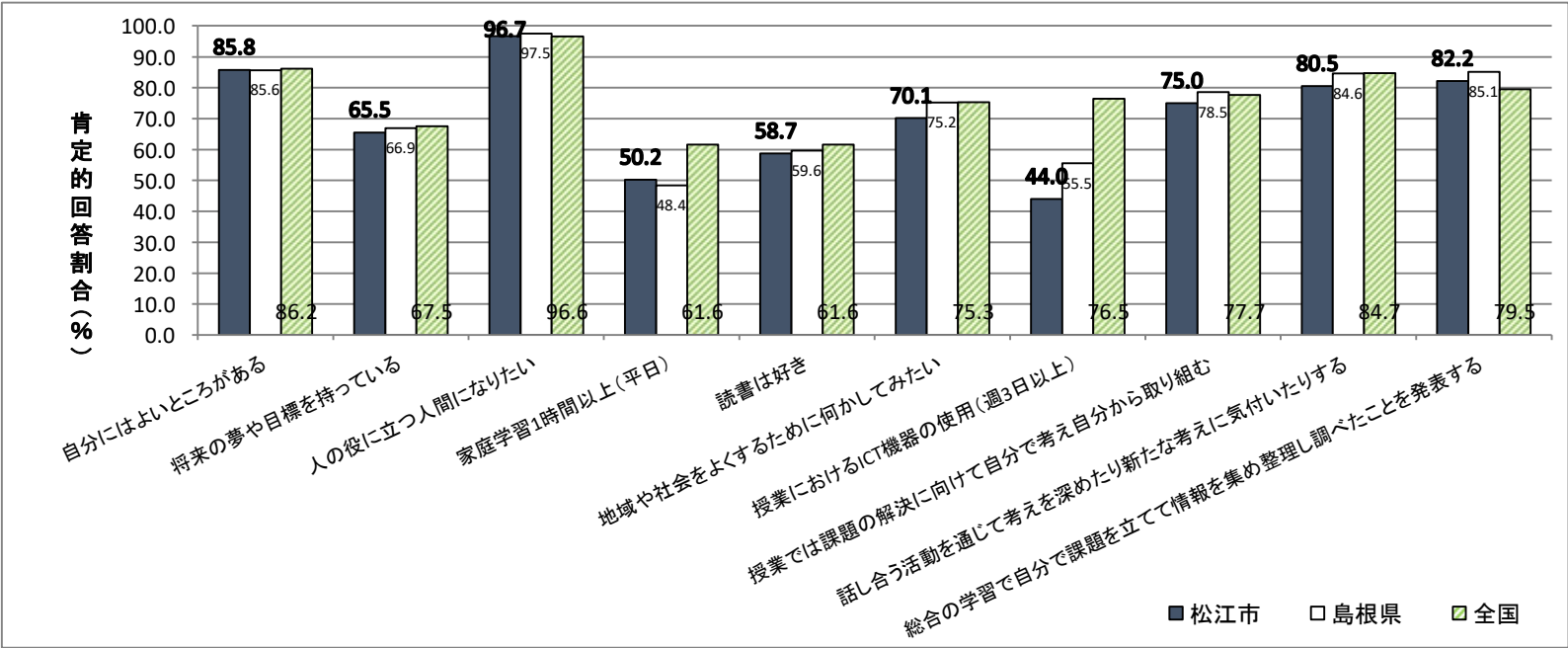
(3)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
質問紙	○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒が多い。 ●学習時のICT機器の使用頻度が全国平均よりも低く、かつICT機器を活用する良さやICTを効果的に使用できると実感している生徒も少ない。 ●国語の勉強が好きという肯定的回答の割合が低い。 ●家庭学習1時間以上(平日)の割合が昨年度より下がり、全国平均との差も広がっている。	・探究的な学習において、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような学習課題を設定したり、ICT機器を効果的に活用するような授業展開を工夫したりする。 ・ICT機器活用の良さを生徒が実感できるよう、自分のペースで理解しながら学習を進められることなど、授業や家庭学習で自分に合った学び方を選択できるようにする。

(4)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、松江市教育委員会として注目しているものを挙げています。)



【参考】[国語・数学]平均正答率(%)

	松江市	島根県	全国(公立)
国語	53	53	54.3
数学	48	46	48.3
理科*	484	494	503

【受検者数】 1,414 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

*[理科]IRTスコア
→IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点を表すもの。